

3 合成性フェロモン剤によるハイマダラノメイガの誘殺消長

ねらいと成果

ハイマダラノメイガは、近年急激に発生が増加している害虫で、幼虫がダイコン・キャベツ等のアブラナ科野菜の生育初期に寄生して新芽の部分を食害し、生育が停止したり、結球しなくなるなどの被害を引き起こす重要害虫である。本虫は、発生に気づいてからでは防除が間に合わないため、効果的に防除するためには発生消長を把握する必要がある。未交尾の雌成虫を用いたトラップや、誘引植物（クレオメ）を用いて発生消長を見る方法もあるが、手間がかかるという問題がある。そこで、ハイマダラノメイガの合成性フェロモン剤を用いたフェロモントラップにより誘殺消長を調査した。2002年は7月以降誘殺数が大きく増加し、7月3半旬、8月5半旬、9月6半旬にピークが見られた。2003年は7～9月の誘殺数が少なく、10月以降誘殺数が大きく増加した。

内容

2002～2003年に、合成性フェロモン剤をセットしたファネル型トラップを農業技術センター内の圃

場周辺に設置し、ハイマダラノメイガ成虫の誘殺消長を調査した（図）。

2002年は、7月に入って誘殺数が大きく増加し、7月3半旬、8月5半旬、9月6半旬と3回のピークが見られた。2003年も2002年同様に農業技術センター内の圃場周辺にファネル型トラップを設置して調査を行った。誘殺消長は、7月～9月までは前年に比べて誘殺数が非常に少なく推移し、10月に入り漸増傾向を示し、11月中は前年より誘殺数が多くなった。2003年は6～8月にかけて雨が多く、9～11月は気温が高かったことから、このような発生消長となったと考えられる。

今後の方針

未交尾雌成虫や誘引植物を用いた場合と比較して、本剤を用いることによりはるかに少ない手間でハイマダラノメイガの発生消長を調査することができる。このことから、本剤は有効利用できるものと考えられる。今後の製品化が期待される。

寺田 章（農業技セ・病虫害防除部）

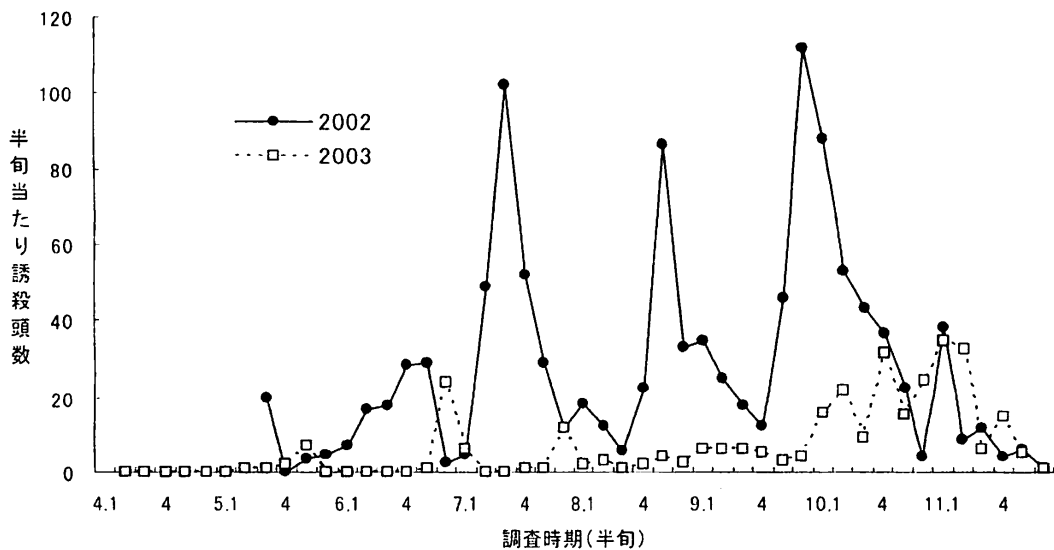


図 ハイマダラノメイガ誘殺数の推移(加西市別府町)